

仏教企画通信

発行日 | 令和7年3月1日

79号

発行所 | 有限会社 仏教企画
〒252-0116
神奈川県相模原市緑区城山4-2-5
Tel. 042-703-8641
Fax. 042-782-5117

発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆直
編集 | 加藤順子

Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

伝来した中国の仏教

誰もが知っているように、仏教は北インドで誕生した宗教である。ところが伝播していく過程では、それぞれの地域で独自の仏教が生まれていった。もちろんそれらには共通性もあるけれど、キリスト教やイスラム教のような世界宗教としての統一性は極めて薄い。

日本には500年代前半に仏教がもたらされているが、その仏教は中国で再創造された、いわば中国仏教とでもいうようなものだった。中国仏教は一方では儒教と融合して国家護持の仏教として定着した。儒教には国家、国王が存在してこそ、社会も人々の暮らしも成立するという考え方があるから、この宗教では国家護持が中心の課題になる。この役割を仏教も内蔵するから、中国仏教は定着した。

だす考え方をもっている。仙人になることができれば、いわば超能力を獲得して、病気を治したり社会から厄災を取り除くこともできる。道教は病氣治癒に漢方薬を用いることも多かったが、災難をとりぬくために邪気を払う「祈禱」、呪術もおこなう。ゆえに道教と融合することによって、中国仏教は国家護持の「祈禱」、呪術だけではなく、病氣治癒や厄災除去のための「祈禱」、呪術もおこなうようになった。

仏教の多様性を考える

風土のなかで生きる
民衆の仏教
内山 節

この仏教が日本の古代政権の元に伝えられたのである。ゆえに古代の権力者たちにとっては、仏教は呪術的な力をもつ国家護持の宗教であり、同時に自分たちの病気を治したり、自然災害や疫病の流行から社会を守る呪術的な力をもつ宗教として受け入れられた。500年代前半に公式に仏教が伝来したとよく言われるが、それは公権力に伝来したということであって、公式の「正しい」仏教が伝来したというわけではない。伝来したのは中国仏教だった。

よい法相教学の確立に努めている。日本からも道昭が遣唐使として中国に渡り、玄奘から直接法相教学を学んで帰国している。しかし、そのような研鑽を内在させながらも、中国仏教は儒教、道教と習合しながら、中国特有の仏教として定着した。

調和する仏教

仏教にはこのような変容がたえず発生している。アシヨカ王の時代にスリランカに伝わり、その後南アジアに広がっていく南伝仏教と、大乘仏教として広がった北伝仏教とは多くの相違があるし、大乘仏教でもチベット仏教、中国仏教、朝鮮仏教、日本仏教、ベトナム仏教はそれぞれが独自の展開を遂げている。日本では葬儀や法事が僧侶の大事な役割として定着したが、仏教經典を讀んでもそこに仏教の役割があるような記述はどこにもない。經典原理主義の立場に立てば、日本の仏教もまた「逸脱した」仏教として日本化されたのである。

そればかりか誰もが悟りを開き、仏になることができるのだと教える。もちろん、南伝仏教では悟りを開くためには出家して娑婆との関係を断たなければならず、娑婆の身のままでも誰かが悟りの世界に開けると考える大乘仏教の間には開きがあるけれど、それでも誰にも仏の道を歩む可能性があるとことに変わりはない。

すなわち神が主体なのではなく、「我々」が主体なのである。そしてこの「我々」は、現実の世界のなかで生きていく。風土、歴史、文化、日々の営みなどが結び合っている。「我々」としては唯一無二の世界のなかで生きていくのである。

多様な民衆の仏教へ

20年ほど前、私はフランスの地中海に近い高原地帯に滞在していたときがあった。主に羊を飼う酪農地帯で、小さな村々が点在している。ある日のこと、村人が数人集まって立ち話をしていた。「今年こそみんなで聖地を訪れたいね」、そんな会話が聞こえてきた。私が近くにいたので、村人が私を話の輪に入れてくれた。「聖地ってどこに行くの。ローマ？」そう聞くと村人たちは「ゲラゲラ笑い出し、「なんであんなところに行かなければならないんです」と言った。フランスはカトリックの国だから私はそう言ったのだけれど、村人の反応を見てこの辺りは昔、キリスト教アルビジョア派の強い地域だったことを思い出した。確か16世紀くらいだった

と思うが、ローマ法王はアルビジオア派を異端と認定し、各国に十字軍の派遣を命じた。キリスト教では異端は火あぶりである。このとき焼き殺された人たちは、5万人とも20万人ともいわれている。大量虐殺がおこなわれ、この地域はパリの政権に併合されることになった。こうしてこの地はフランスになった歴史をもっているのである。村人たちが行きたい聖地はローマではなく、スペインの巡礼の道だった。

③天神堂
低地を越えた飛地である菅谷不動堂の真後に、これも古くから建っていたもの。昭和8年に「天神堂奉祀さる」と原本未詳の記録がある。総代

②井戸館
こちらも古く、井戸の左側にあり、解体した時に「嘉永」と書いた板切(棟銘)があったから、当時すでに100年以上を経ている。(拙著「沼南の宗教文化誌」90頁参照)。

①庫裡
庫裡は⑥の本堂と共に、寺の再中興和尚である象山湛龍代に苦心惨憺の末に享保18(1733)年から同19年にかけて再興した古建築であった。令和の今日まではすでに290年を経ているから、すでに昭和時代でも古く老朽して使用に耐え難く、何度も檀家の会合に話を出していたのが漸く功を奏しての改修。



天神堂 改築 1977年7月25日

―世話人を通して地元檀家に勸化帳を廻し、低額であった為に直ぐ集金され、昭和52(1977)年7月25日、遷座式を挙行。因みに大工は落合新蔵(重好の父)。天神は学問振興の神であるから、習字や漢字に尽力した二十九世大由が、この堂宇を建て、本堂内部とともに両所に奉祀したと思いきや、基礎工事をした時地下から「太子宮」その他の石塔が出土しているから、この天神堂の歴史はより古いようである。古い書付の二十六世隠山(謙之和尚の欄に「待道堂天神堂」とあるから、この様々な功勞を遺した隠山さんの時代に創建されたものと見られる。建物内部は9尺四方を二分し、左側に天満宮が安置され、香燭が供えられるようにしただけの至って質素な堂宇である。菅谷不動は昭和29年に全焼しているから、この天神堂の記録もその際に失われたのであろう。昔、正月25日にはお団子が沢山供えられていた。

④庫裡
こちらは木造瓦葺きで①の改修。六間×四間で全て和風壁は泥土に小舞をかけて白い漆喰を上塗りした古風な造りだから壁の厚みは30cmもある頑丈なもの。私は永年居住していたが、例の3・11の大揺れでもビクともしなかった。今は次のご住職が居住している。本尊には珍しく毘沙門天を祀っている。

⑥本堂
元は①で述べた庫裡と同時期一連の建物で、木造葺き。庫裡とは鉤の手の形に繋がっていた。毎年のように葺き替えをせねばならず、その維持管理は大変であった。幾度となく役員会を開いた結果、

⑤客殿
休憩室として建立したものであり、別にお庭らしいお庭もなく、立派なトイレがあるわけではない。でもトイレは必要であるから、本堂への登り口に一応洋式のものをついてはいるが、男性用3、女性用2だけの小さなもの。登り口といったらまさに、本堂と高低差が3尺ほどあり、この階段用の木材は、昔から「開山松」と称していた樹齢何百年かの黒松が数年前に枯死しており、その中間部分を何かを利用してすべく保管してあったものを用いた。故に、これは厚みも中も立派である。この松材を階段と、本尊背後の位牌堂上部に用いたから、開山松もきつとお喜びであろう。



椎名宏雄 新建成った本堂の前で(石井紋四郎氏より) 1986(昭和61)年1月5日

⑦観音堂(大悲殿)
正面額に二十九世大由が大正頃(多分、大正5年)に揮毫した「大悲殿」の能筆が揮毫している。この堂宇に呼称している。この堂宇には、昔、松戸の権橋利助という石工の名工が、秩父、西国、坂東の各三十三観音、計百観音とその他の石仏計120体を彫造して奉ったもので、県下では他に例がないといわれる。造立主は二十五世正珠鉄眼で、当時は火防からの発願であり、近在24カ村の有力者による造立であった。(拙著「沼南の宗教文化誌」41頁以下参照)。老朽したので堂宇の改修を企り、檀信徒や参禅会員有志など300名以上の方から約3千万円の寄進により和装に改修し、平成4年に落慶入仏となった。なお本堂と離れていては不便なので、直後に渡り廊下を付

漸く昭和末年の「バブル経済」の時期到来により、真山の先方約8反部(約2400坪)の売却金約1億2千万を基金に檀信徒約250戸からの寄附金約6千万円などにより、一応従前とは比較にならない立派な銅板葺きの本堂が完成した。当時は入金を預金しておくと、すぐに何十万も利息がつく時代で、今日では考えられない金員の動向であった。建設委員は総員22名(地元20遠方2)、委員長は総代の旧家である長妻量平氏、設計士は

松戸市の中村認雄氏、施工は東京の有井建設。5社の入札により有井建設が決まったがこの業者は明治神宮のお抱え業者的な立場にあり、明治神宮の多くの建造物を手掛けた。建築工事は昭和56年から始まり、現坐禅堂付近に飯場を設け、大勢の大工・高木ちが2年近く泊まり込みで業務に当たった。土木工事から加工・組立・造作すべてを同会社の人々の協力で行った。上棟には揃いの法被を着用し、諸儀式を如法の如く行い、建

造物の上には高く上屋を掛けて、完工するまでは徒に立ち入りできなかった。故に昭和57年の盆賑餓鬼は当山始まって以来、前庭に天幕を巡らして行い、無事に完遂できた。その梗概は本堂前に立つ「殿堂建立記念碑」に詳しい他、16mmフィルム、各種の写真や諸道具・記録類はすべて宝蔵内に保存されている。寺号額は時の永平寺貫首、奏慧玉禪師に書いて頂いた。昭和57年3月の完成引渡しであった。なお、この約250年ぶりの本堂完工を機として、火災保険・火災報知機の設置を本堂・客殿・観音堂などに施工し、災害に備えた。

生みだしてきた。ところが仏教にはもうひとつの仏教がある。それは教義ではなく、自分たちの生きる世界で得意でできるような仏教である。そこに民衆仏教の定着があり、それはそれぞれの生きる世界で多様に展開する。しかもこの民衆としての「我々」こそが仏になる主体だと考えるのが仏教思想である以上、学僧の仏教もまた民衆仏教が成立しうる根拠を提示していかなければならなかった。とりわけ大乘仏教においては、である。こうして大乘仏教では如来蔵思想や阿頼耶識の発見、すべての生類の解放を願う初発の願いがすべてでだとして即身成仏思想などが生まれてくる。やはり主体はすべて「我々」なのである。仏教は神のような唯一の真理をもたず、すべての生類が成仏する思想として成立した。そしてそれがゆえに多様な仏教の世界を生み、自分とは異なる仏教を認める信仰世界をつくりだした。それは本質的に平和を内蔵させた信仰だった。



内山 節(うちやまたかし) 哲学者。1970年代から東京と群馬県上野村の二拠点生活。元立教大学21世紀社会デザイン研究科教授。近著に『内山節著作集』(全15巻、農文協)『半市場経済成長だけでない「共創社会」の時代』(角川新書)他多数。

私の先師は富山県の寒村生まれであった。まだ元氣であった頃、よく「富山はなあ、田舎なもので、寺はみんな小さくて、尼さんが多かったが、皆こまめによく働いておったぞ」と口癖のようにいついた。確かに宗門の『寺院名鑑』で見ると、誠に失礼ではあるが、富山県は概して級階は低く、準法地の割合は高い。近年まで尼僧堂が置かれていたのも宜なるかなと思わせるものがある。だが、かかる地域こそ、日常は行持綿密に努め、地元の地域住民からは広く深い信奉を集めていたのが、また宗門の持つ素晴らしい長所であった。

富山に縁の深い駒大某教授が、「富山の宗門は真宗のおこぼれを頂戴しているのさ」といつていたが、なるほど真

宗寺院も数が多いが、多くの小ぶりの寺々が多面的に活動している状況を知れば、「おこぼれ」どころではなく、宗派を越えて長所を範とし合い、互いに良い点を協力し合い、共存共栄をはかっていたのかも知れない。

だから私が今ここで、頭書のようなタイトルで経緯を書いたのは、一面、地域や背景を無視した自慢話と受け取られる恐れを杞憂しなければならぬ。だから、ここではあくまで千葉県下という、葬斎だけに熱意を上げるが、戒会や三仏忌などは極端に少なく、曹青活動も停滞、歳末助け合い托鉢なども尻つぼみ、という、無仏法地帯の千葉県曹洞宗」というマイナス的な面を基準としての記載であること

また地形的には、田、畑、山林のみが続く平坦地であり、高山も深川も皆無で肥沃な土壌に恵まれ、北側の手賀沼方面から幾条かの細谷津と小さな流れが入り込んだ、変化のない地形である。このような地理の中に、龍泉院は境内地



千葉県柏市 龍泉院東堂
椎名宏雄

千葉県龍泉院の建物

まず、私が63年間住職をしていた旧沼南町の町勢を述べておく。町はずでに合併して消えたが、平成17年3月に柏市と合併する以前は、面積約100km²、人口4万8千人で発展途上にあった。ただ龍泉院の居住地は鉄道からは遠く、交通は一日に1、2本の路線バスがあるのみで、利用者は高校生ぐらいまでの児童生徒と病院通いの高齢者がほとんど。若者と壮年までの人達は、4、5km離れた国道まで出れば、大都会さながらの大商店・ホテル・病院ありなので、車の運転だけでバスなどは利用しない。だから高齢者で昔からの住民が細々と田畑を耕作しているという、全国的に少子高齢化で農山村疲弊の典型的状況が龍泉院の客観的な背景であった。



龍泉院前の畑の状況 道路は舗装となっていますが、畑は今も不変の状況です。1957(昭和32)年5月4日

以上の様に書き上げると、数だけは多く、流石に我ながら驚かざるを得ない。では次に

- ①庫裡
- ②井戸館
- ③天神堂
- ④庫裡
- ⑤客殿
- ⑥本堂
- ⑦観音堂(大悲殿)
- ⑧珠算塾
- ⑨外部トイレ
- ⑩物置
- ⑪菅谷不動堂
- ⑫客殿
- ⑬山門
- ⑭六地藏堂
- ⑮大師堂
- ⑯墓地水舎
- ⑰坐禅堂
- ⑱稲荷・妙見堂
- ⑲車庫
- ⑳宝蔵
- ㉑東堂
- ㉒大師堂(菅谷不動堂横)
- ㉓永代供養墓(庭中)
- ㉔待道堂

私が般若心経に初めて触れたのは、まだ幼い頃でした。家族は仏教に深い信仰を持っていただけではありませんが、法事の度にその読経が響くと、心の奥深くにそこはかとない安寧を覚えました。ご住職の口から、低い声で発せられるそのお経の音韻がなんとも不思議な呪文のように感じられ、意味もわからないまま、親族一同で「般若心経」を口ずさんだものです。私はその響きの陰にこもったような美しい調べに魅了されていました。しかし、当時の私にとって、それは単なる儀式の一部であり、その深い意味を理解するには程遠いものでした。

それから数十年が過ぎ、社会人になって何年か経つと、自分自身の大きな戦いを経験することになりました。強迫神経症——その病名を知ることから、私はこの病に苦しんでいました。特に、世の中の「汚れ」に対する過剰な意識は、私の日常を支配していました。不衛生な環境に対する嫌悪感、感染症への強い恐怖心。そして、それを回避するために繰り返す手洗いや除菌。清潔でありたいという願望が、いつしか恐怖へと変貌して、私の行動を縛る鎖となっていました。

強迫神経症に悩む日々は、他者には理解されにくい孤独との戦いでもありました。一日に呆れるほど手を洗ひ、洗った直後にまた手が汚れていると感じてしまう。汚れのない生活を追い求めるあまり、外出が億劫になり、以前のようになくなりました。周囲から見れば「少し神経質な人」に映ったかもしれませんが、私の内心は常に不安と自己嫌悪でいっぱいでした。

そんなある日、ふと書棚にあった「般若心経」の一冊を手にとったことが転機となりました。幼い頃から馴染みのあった経典でしたが、そのとき私は初めて目にするよきな気持ちで、経文を読みはじめました。そして、目に留まったのが「不垢不浄」という言葉でした。

「不垢不浄」、つまり「汚れもなく、清らかでもない」という教え。この言葉が私の胸に深く刺さりました。汚れも清らかさも、人間が勝手に意味付けしたものであり、実際にはそのような二元論的な区別は存在しない。すべては空つまり実体を持たないものだというのです。

この考えに触れたとき、私の中で何が訪れました。清潔への執着、それは自分自身が作り出した「汚れ」という幻想に縛られていたからにほかなりません。そして、その幻想を追い続ける限り、どれだけ手を洗っても、不安は消えなかったのです。この気づきを経験した後、私はありとあらゆる般若心経の解説書を読み漁りました。いまでもその本質はまだまだ「不浄を恐れな



きまはまるで初めて目にするよきな気持ちで、経文を読みはじめました。そして、目に留まったのが「不垢不浄」という言葉でした。

般若心経は私に「物事の本質を見なさい」と教えてくれました。自分が感じる不安や恐怖の根本には、自らの思い込みや価値観がある。それを取り除くことで、心は自由になれる。この気づきは、私にとってまさに光明のはじまりでした。

と来し方を振り返りました。般若心経は私の中で、ただの経典から、生き方そのものを示すものへと変わっていったのです。その教えがなければ、私は今でも強迫神経症に苦しみ、自分を責め続けていたかもしれません。

執筆一終 穂(ひいらぎいこい) 一九六四年生まれ。筑波大学卒業後、出版社数社を経て独立。ライター兼編集者として書籍・雑誌の制作に携わっている。



「きれい」「きたない」などの思いは自分の心が作り出す幻影に過ぎない。病から解き放たれ、各地の旅を楽しむ著者。

不思議な響きを持つ般若心経

般若心経とともにひとりの信徒として

感染症への恐怖と手洗いの果てに

不垢不浄の意味との出会い

成長とともに味わう般若心経の深み

け、使用勝手を良くした。この時、⑤の本堂を建立した際の青森の材木商が僅か1千万円の予算で、すでに伐採制限となっていた「青森ヒバ」を送って下さった。これらの経緯も諸記録が宝蔵中に保管されている。

ほとんど拙妻の功勞によつて成ったような建築物である。拙妻は昭和42年4月に当山へ嫁して来たが、婚礼の時に「もと三井銀行の行員で珠算は1級」という披露を聞き知った近所の児童が、その翌日から「珠算を教えてくれ」とゾロゾロやって来た。止むをえず当時は享保の古本堂に次々と蛍光灯を増やして使っていたが、やがて数十名ともなると、机やトイレに困り果てて、遂に庫裡の背後に2階建瓦葺きの建物を新築した。間口8間、奥行6間の大きなもので、そこにトイレと玄関も付設した。大工は地元石井某。経費は私の管轄外であるから明確ではない。寄付などは一銭も受けず、家内はさぞかし身をつたことであろう。

一階の教場には、細長い昔式の飯台を置き、壁面は書棚として児童書を満載させた。子供好きな拙妻は、塾の方は特訓に特訓、児童書は読み教えを常にしていたから、多い時には100名もの児童で溢れていた。帰りのバスがなくなつた子は、二人で手分けして車で送り届けた。またこの教場は、後に観音堂を開いていた参禅会の提唱会場代わり

や、本堂が落慶し私の結婚。制集会の際は随喜寺院の控室にと、多角的に用いられて役に立った。拙妻の努力で得た珠算関係の賞状・カップの類は、現在この塾中には所狭しと安置されている。塾の教え子は、もう孫持ちの年配者も居るが、皆が昔を懐かしんでいる。当時は最も喜んだのは親達であったが、学校の教員からも「社会福祉」の面までお世話になってと、何度も謝礼をいわれた。



椎名宏雄(しいなこうゆう) (後半は、次号に掲載予定です)

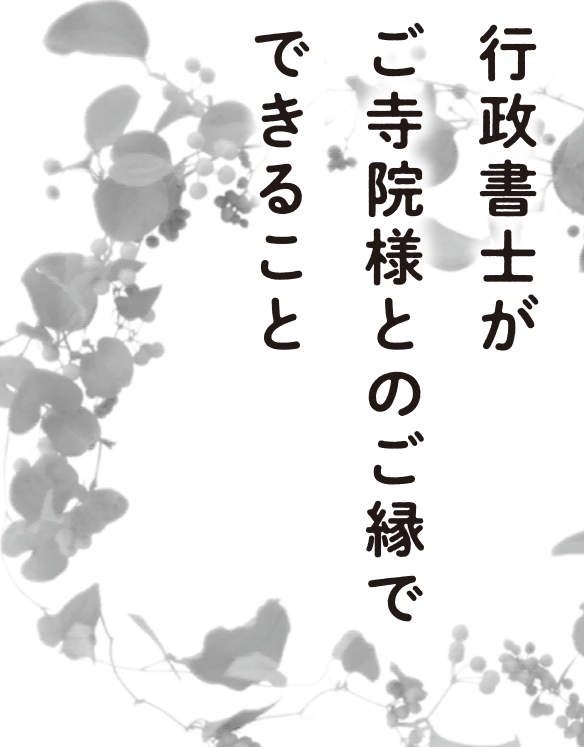
以前から境内の諸方にあつたが、今回は観音堂の南側に9尺×2間のトタン葺きで簡素なものに改築。男2・女2の小さな建物で、石井造園業の施工であるから、排水は南側の低地まで太管を延長して自然排水。自治体でまだ給排水設備をしていないので止むを得ぬ措置だった。

行政書士の笠井その美でございます。このたびは、東京都の永正寺様と福井県の日庭寺様の合併手続きを代行させていただきました。このような機会をいただきまして大変にありがたく感じしております。全国のお寺様で、同様のお手続きなどでお困りの方に何かお役立ていただけ

ります。永正寺様とは直接のご縁があったわけではありませんが、私の祖母が亡くなった際、供養にいらしていただいたご住職が曹洞宗の方で、私の母校である駒澤大学の先輩でした。その方から藤木ご住職とのご縁を繋いでいただいたのです。相模原市の日庭寺

様でのお地藏様祭り、永正寺様での写経・写仏教室、年末の餅つき大会などの行事に楽しく参加させていただいており、コロナ禍の前は、永正寺様で遺言セミナーを開催させていただきましたことでもあります。今回は、東京都永正寺様と福井県日庭寺様の合併手続き

主な業務は最初に書かせていただきました通り、遺言・相続・各種許認可に関するお手伝いです。私の活動の一環として異業種交流会にも所属して、税理士・司法書士・弁護士等の士業、不動産会社・ファイナンシャルプランナーなどの金融関係、変わったところでは古物商 鑑定団のような目利き などの職種



行政書士がご寺院様とのご縁でできること

「寺院」は近隣の住民からの信頼度が高く、こうした相談会・セミナーなどを開催する場所に適しているように感じています。こうしたことは、今後の寺院運営にもお役立ていただけると思います、私が少しでもそのお手伝いをさせていただきます。心より感謝申し上げます。

さて、ここからは少し私の仕事について説明させていただきます。

主な業務は最初に書かせていただきました通り、遺言・相続・各種許認可に関するお手伝いです。私の活動の一環として異業種交流会にも所属して、税理士・司法書士・弁護士等の士業、不動産会社・ファイナンシャルプランナーなどの金融関係、変わったところでは古物商 鑑定団のような目利き などの職種

の方々とながりをもち、意見交換をしています。さらに上記のメンバーとは、区民会館・区役所などの公的な場所での相続セミナーや相談会などの開催に力を入れており、毎度好評をいただいております。今年も定期的に開催予定です。

永正寺様でも今後、ご住職のお力をおかりいたしましたとして、ご寺院様を会場とした新しいイベントの開催を考えていたいただきたいと考えております。現在、超高齢化社会となり、遺言・相続などの業務は増えていく一方と思われまます。相談会・セミナーなどの集まりはますます盛況になると予想されます。

笠井行政書士事務所
行政書士 笠井その美
〒160-0023東京都新宿区西新宿7-10-17
新宿ダイカンプラザB館1002号
TEL.....03-6279-2476
FAX.....03-6279-2478
E-Mail...info@kasai-gyosei.com
HP.....kasai-gyosei.com

「パラダイムシフト」という言葉があります。パラダイムシフトとは、ある分野や社会で長い間当たり前とされていた考え方や枠組み(パラダイム)が、画期的な発見や変化によって大きく覆され、新しい枠組みに変わることを指します。身近な例をいくつ挙げてみます。科学界なら、天動説から地動説への移行(天文学の基礎的な考え方が変わった)。技術なら、フィルムカメラからデジタルカメラ

過去のパラダイムシフトから学ぶこと

これは仏教活動についても同様ではないでしょうか。仏教は時代とともにその顔つきを変えてきました。それは時代の要請と違っていいでしょう。

人間は「安定」を求めます。昨日と同じ環境や境遇を維持することに執着します。それは人間の本能のなせる技でしょう。



秋彼岸会、埼玉県曹源寺では書院を開放し、不定期で何かしらの展示を企画している。お彼岸のお参りで曹源寺を訪れる方々に「寺院」を場として提供する。仏教や寺院の持つ豊かな歴史・文化にも触れてもらうことを企図している。

2024年の期間中には、干支に因み龍にまつわる掛軸などを展示。書院には、著名な僧による書や、味わい深い筆運びの文字、現代の職人の技が光る作品が所狭しと掲げられている。

展示会のチラシの題字は住職の手によるもの。自身も師につき書を学んでいるという住職の中村瑞峰師にお話しを伺った。

龍墨展

日本の伝統文化を 活かす場所としての寺院

題字：曹源寺住職

当山では40年前より「秋の彼岸展」を開催しています。什物である書画や仏像等を展示して、お参りの際に鑑賞できるように参拝者に公開しています。当山所蔵のものだけでなく、知人の仏師や画家(洋画・日本画)、陶芸家や檀家などの方々にお借りして展示する場合もあります。

令和6年度は辰年でしたので、平成24年以來2度目の「龍墨展」となりました。「龍墨」とは禅僧が書いた「龍」の字の墨跡*1の事で、略して「龍墨」としました。

「龍」は草書体で筆を強く叩きつけ、恰も絵の如く表されています。他に小さく「日猷四海水」(龍に日々清らかな東西南北の水を献ず)・「家に壬癸神(水の神)在り」と書かれた軸もありました。

「龍」は古代より海を住処として水を自由自在に操り、十二支の中で唯一の架空の動物で、威厳や神秘性を備えた「聖獣」とされ、神通力で人間の災いを除き福をもたらすといわれています。

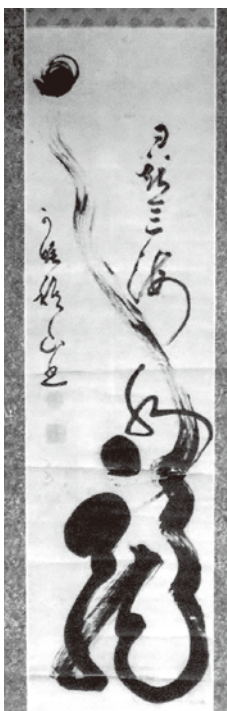
現代でも洪水や干ばつ、山火事などの自然災害は後を絶ちません。「龍墨」を観ていると、先人たちは思い通りにならない自然の象徴である「龍」に畏怖の念を持ちながら、災いが無きよう切に願った姿が思い浮かびます。



書院玄関 龍墨展のポスター 「入口」は住職の揮毫



展示風景 床の間側より 写真中央、最奥にある書は「虎」の草書体(寅年に住職が揮毫)。虎は龍の対語である



能登總持寺独住3世 西有穩山(1821-1910)。「龍」の草書体(寅年に住職が揮毫)。虎は龍の対語である



永平寺77世 丹羽藤芳「龍天白山護法善神」。修行僧の守り神(龍天軸)



大雄山最乗寺360世 活山大愚「龍」(一字)。昇り龍のイメージ



越後大栄寺13世 無学絶宗(1709-1795)「龍」。絶宗の墨跡は火防の効果があると信ぜられ多くの人に尊重された



世田谷 豪徳寺22世 巨海東流(1780-1853)「龍」。家在壬癸神(家に壬癸神在り)。壬癸神は水の神=火防の言葉



龍のタブストーリー(平成24年作成)。お装束の刺繍職人に依頼したもので

*1 特に禅僧の記した筆跡をさす。書道の古典のような優美さや繊細さは異なり、その人の精神性を露わに写し、重厚さ、時には良く研がれた刃物のような鋭さを備えている書のこと。

ラへの転換(写真撮影の方法と産業構造が変わった)。社会的に言えば、インターネットの普及による情報流通の革命(情報入手方法やビジネスモデルが激変。つまり「根本的な考え方や仕組みの大転換」と考える)とわかりやすいです。

「安定」を求める人間、「変化」を求める「世界」

仏教の歴史を紐解くと、既存の様式や教理を覆し、新たな考えを提唱することが幾度も行われてきました。これらの変革は、当時の教団や信者

にとつて大きな混乱をもたらしましたが、最終的には仏教の進化に寄与し、現代の私たちに多くの示唆を与えています。ここでは、仏教史における代表的なパラダイムシフトを5つ取り上げ、それが仏教界にもたらした事実と現代への示唆について考察します。

紀元前3世紀の部派仏教時代、仏教は個人々の解脱を目的とした修行を中心に据えていました。しかし、ナーガールジュナ(龍樹)は「空の思想」をもとに、大乘仏教の新たな価値観を打ち立てました。それは、全ての人々を救済する「菩薩道」の実践です。この転換によって、仏教は個人の修行を超え、社会全体に普及する道を開きました。

密教の登場は、仏教に神秘性と現世利益を加えました。特に空海が日本にもたらした真言密教は、曼荼羅や儀式を通じて仏と人間のつながりを強調しました。この視覚的・儀礼的要素は、庶民や貴族の間で仏教を広めるのに大きく貢献しました。密教は単なる哲学ではなく、人々の心をつかむ芸術的で実践的な仏教として発展しました。

日本の平安時代、法然が始めた浄土宗は、「南無阿弥陀仏」という念仏だけで救われるという平等主義を提唱しました。親鸞の「悪人正機説」はさらにこの思想を深化させ、どんな人でも救われる可能性がある」と説きました。この教えは、修行や学問に縁のなかつた庶民にも仏教の扉を開き、仏教の大衆化を進める大きな原動力となりました。

現代の日本に目を向けると、ともすれば、寺院が檀家中心の活動に力を注ぐあまり、地域社会全体との関わりが限定的になる可能性もあります。かつて、仏教はその時代ごとの人々の生活や価値観にに応じて姿を変え、地域社会に根付いてきました。現代においても、寺院が単に仏事を行う場所としてだけでなく、地域社会全体に貢献する存在へと変わることが求められているのではないのでしょうか。高齢化社会の中での福祉拠点、多文化共生を促進する場の提供など、寺院が社会に果たすべき役割は広がっています。

中国で発展した禅宗は、経典中心主義に異を唱えました。達磨(ボーディダルマ)は、文字や理論に頼るのではなく、瞑想や師弟間の直接的な対話を通じて悟りを得る道を説きました。この教えは、日本では道元をはじめ、臨済によって武士階級や庶民にも広まり、現実的で実践的な仏教の形を確立しました。禅宗は仏教を日常生活の中で実践する意義を示し、「生きた仏教」とし

2 禅宗の実践主義——経典から行動へ

鎌倉時代に日蓮は、唯一の真理として「法華経」を掲げ、「南無妙法蓮華経」の唱題を中心としました。日蓮の活動は庶民への積極的な布教と社会批判を伴い、仏教が個人の精神的支柱としてだけでなく、社会運動や改革の一翼を担う可能性を示しました。彼の思

5 日蓮宗——個人信仰と社会運動

密教の登場は、仏教に神秘性と現世利益を加えました。特に空海が日本にもたらした真言密教は、曼荼羅や儀式を通じて仏と人間のつながりを強調しました。この視覚的・儀礼的要素は、庶民や貴族の間で仏教を広めるのに大きく貢献しました。密教は単なる哲学ではなく、人々の心をつかむ芸術的で実践的な仏教として発展しました。

4 浄土宗——救済の平等主義

現代の日本に目を向けると、ともすれば、寺院が檀家中心の活動に力を注ぐあまり、地域社会全体との関わりが限定的になる可能性もあります。かつて、仏教はその時代ごとの人々の生活や価値観にに応じて姿を変え、地域社会に根付いてきました。現代においても、寺院が単に仏事を行う場所としてだけでなく、地域社会全体に貢献する存在へと変わることが求められているのではないのでしょうか。高齢化社会の中での福祉拠点、多文化共生を促進する場の提供など、寺院が社会に果たすべき役割は広がっています。

3 密教——視覚と儀礼の宗教

現代の日本に目を向けると、ともすれば、寺院が檀家中心の活動に力を注ぐあまり、地域社会全体との関わりが限定的になる可能性もあります。かつて、仏教はその時代ごとの人々の生活や価値観にに応じて姿を変え、地域社会に根付いてきました。現代においても、寺院が単に仏事を行う場所としてだけでなく、地域社会全体に貢献する存在へと変わることが求められているのではないのでしょうか。高齢化社会の中での福祉拠点、多文化共生を促進する場の提供など、寺院が社会に果たすべき役割は広がっています。

さらに重要なのは、仏教界全体が宗派の枠を超えて協力し、社会参加を果たしていく

ことです。仏教には多様な教えが存在しますが、その根底にある「人々を救済する」という目的は共通しています。宗派の違いを乗り越え、共通の価値観に基づいて協働することで、仏教はより大きな社会的影響を持つことができます。たとえば、環境問題や貧困、心の健康といった現代的課題に対して、仏教界が一丸となって取り組むことができれば、その影響力は計り知れません。

仏教の歴史が示しているように、変化と協力は仏教の発展を支えてきた要因です。現代の仏教界がその精神を受け継ぎ、宗派を超えた協力を通じて社会に積極的に関与することは、未来の仏教を形作る鍵となるのではないのでしょうか。実際に、若手の僧侶を中心に、さまざまな新しい試みが各地で芽生えつつあります。これらの活動に懐疑の目を向けるのは簡単ですが、彼らが目指す本質を温かい目で見守り、応援することも、仏教をより世の中に浸透させる一助となりそうです。

※次号より次の世代を担う若き僧侶の皆さまや各種団体のリーダーの方々インタビュー掲載予定です。

執筆一終懸(ひらきいこい)

一九六四年生まれ。筑波大学卒業後、出版社数社を経て独立。ライター兼編集者として書籍雑誌の制作に携わっている。

編集後記

藤木隆宣

この原稿を書いているのは1月27日(月)の早朝。本誌の編集後記は私の担当なので読者諸氏には申し訳ないが、お付き合いを頂いている。

12月26日は世田谷区北沢にある本務地小庵「永正寺」で餅つき会があった。都会地なのでスタッフがそろるか心配していたが、ボランティアで「永正寺こどもおとな食堂」のメンバーの石川さんがシモキタ商店街にメールで協力をお願いしたところ、振興組合理事長の長沼さんから連絡があり、説明を聞きたいとのことで早速お会いしてお願いしたところ、下北沢商店街にはいくつかの商店街があり、理事長が声をかけてくださり、餅つき会は100名を超える方々のご参加があり無事終わった。永正寺の餅つき会は4回目です。まだまだ至らないことがあり反省会でもご意見が出て来年に生かすことにな

つた。1月5日(日)は午前8時から永正寺の坐禅会の日、第1日曜日が定例になっている。いつもは4人〜5人なのでそのつもりでいたら、午前8時に6人の新しい方が参加されて慌てた。狭い本堂でとにかく坐れるようにした。まずは坐禅の仕方を簡単に説明、後は慣れてほしいとお願います。そして曹洞宗では椅子坐禅も認められているのでその説明もする。

まずは20分の坐禅、経行、2回目の坐禅20分、後曹洞宗宗務庁から出ている「坐禅作法・食事作法」を参考にしながら、その意味を話す。その後曹洞宗の開祖道元禅師、広められた瑩山禅師、永平寺、總持寺の両本山のことなどを説明して、全員で「修証義」第1章総序を読み、仏教企画から発行されている『修証義 読本・生老病死―運命をどう

生きる』を参考にしながらお経を読む意味などを説明し1時間20分ぐらいの時間を過ごした。

次にいつものように私が用意したおかげと簡単な精進料理を「五観の偈」を唱えて頂く。いつもの人数しか用意していなかったのですが、足りなかったのですが全員が少しづつ分けて頂いた。参加の理由を聞くところからHPを見て来られたようだった。10日は相模原市緑区城山にある分院日庭寺の定例の写経写仏の日で、この会はいつもの方々が先生を含めて6人の参加であった。

写経写仏の会では永正寺でも同じ流れがあり、ご本尊に礼拝と般若心経もしくは修証義を誦することから始まる。1月は新年なのでお経中に焼香をしていただく。その後1時間30分写経もしくは写仏三昧の時間になる。終わってお茶を頂きながらの茶話会になる。この日はおひ

とり87歳の男性の方の初参加があった。レストランを経営されている娘さんが連れて来られ横浜市に住んでいたが、娘さんが引き取り一緒に住んでいるとのことだった。足元もすっかりしておられ、よくお話になられるので続けて来られればいいなと思った次第。

宗教学者曹洞宗が抱えている様々な課題は待たないでいる。①は寺院の後継者問題。②は寺院を支える方々の数が激減していくこと。③は曹洞宗の組織を今後どう展開するかなどであり、一言でかたづけられない大問題ばかりである。宗門の一部の人たちで議論するのはなく宗門一人一人の多くのご意見が反映される方策がないかである。

各県の宗務所で議論して頂いた見解を宗務庁に集計してその中から対策が講じられないかとか曹洞宗青年会の方々のご意見が反映されないかである。今後は青年僧にゆだねなければいけない案件もあるか

藤木隆宣九拝

2025夏・お盆 特集予告

2025年5月31日 発刊予定

曹洞禅グラフ

173号

見えない壁だって、越えられる。

NPO法人モンキーマジック代表・パラクライマー 小林幸一郎さん(視覚障害) インタビュー

小林幸一郎 小ばやし こういちろう 1968年東京都生まれ16歳でフリークライミングに出会う。28歳で網膜色素変性症の診断を受け、その後光を失うが、パラクライミングの世界選手権など国内外の多くの大会で優勝し、55歳で現役を引退。選手として活躍していた37歳の時に障害者クライミングの普及活動を推し進めるNPO法人モンキーマジックを設立。障害者と晴眼者がともに活動することで、多様性を認めあえるより成熟した「真のユニバーサル社会」を実現させることを目的に活動している。

手まり学園

寄附者御芳名(敬称略)

R6.10.4~R6.12.12

Table with 3 columns: 所在地, 寺院名(個人名), 金額. Total amount: 185,000.

てまり学園にご支援をいただき誠にありがとうございます。

仏教企画発行の刊行物

(★部数により割引があります) すべて税別価格です

- 『修証義』解説 丸山劫外著 1,400円★
『まんが問答一期一話』 文 平和宏昭 まんが 垣内敬遠 1,200円★
『葬送のしおり』 長井龍道著 30円
修証義読本『生老病死』 須田道輝著 500円★
『曹洞宗檀信徒經典』 須田道輝解説 300円★
曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』 靈元丈法著 140円★
曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』 靈元丈法著 150円★
俳句随想 玉崎千鶴子 その永遠の世界を探って 500円
『観音の咒 大悲心陀羅尼』 渡辺章悟著 500円
『宗教人類学の地平』 佐々木宏幹編著 2,300円
『仏教人類学の諸相』 佐々木宏幹著 2,300円

*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

お申込み

〒252-0116 神奈川県相模原市緑区城山4-2-5 TEL: 042-703-8641 FAX: 042-782-5117 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

仏教企画

※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客番号(コード)になります。お申込みは ①ご寺院名 ②お客番号 ③電話番号でも可能です。

曹洞禅グラフ

発行日

Table with 2 columns: 発行日, 価格. Includes prices for 1部, 9部以下, 10部以上, etc.